

# インフォメーション ソリューション

## 事業分野

- ヘルスケア(メディカルシステム、医薬品、ライフサイエンス)
- グラフィックシステム
- フラットパネルディスプレイ(FPD)材料
- 記録メディア
- 産業機材/電子材料他

## 当期の概況

インフォメーション ソリューション部門の連結売上高は、メディカルシステムやグラフィックシステムが好調に推移したことなどにより、前年度比9.0%増の9,339億円となりました。当部門の営業利益は、メディカルシステムが事業全般にわたって好調を維持しましたが、前年度に計上した特許等の資産売却益がなくなった影響で、前年度比では横ばいの729億円となりました。



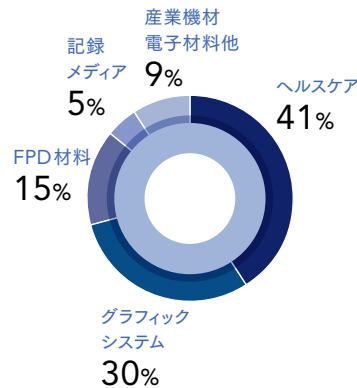
## 売上高

**9,339 億円**  
(対前年度 +9.0%)

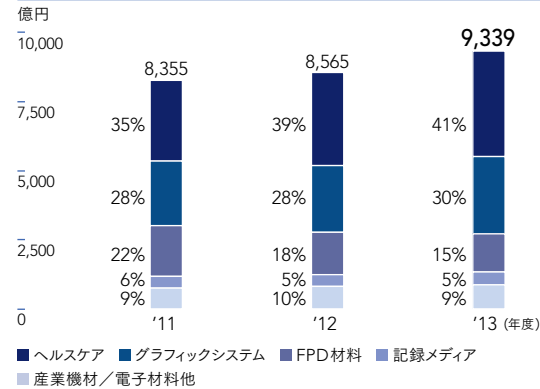
## 営業利益

**729 億円**  
(対前年度 横ばい)

## 売上高構成比率



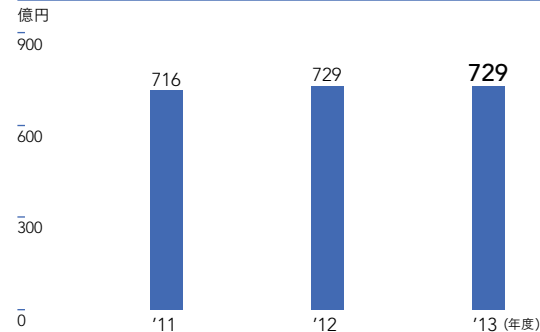
## 売上高推移



## '13対'12増減要因

- 増 ↑**
- メディカルシステムが事業全般で好調。
  - CTPプレートのシェア拡大や為替の円安などにより、グラフィックシステムの売上が拡大。
- 減 ↓**
- デスクトップモニターの需要低迷の影響を受け、FPD材料の「WVフィルム」の売上が減少。

## 営業利益推移



## '13対'12増減要因

- 増 ↑**
- メディカルシステム、グラフィックシステムなどの限界利益が増加。
- 減 ↓**
- 前年度に特許売却などの一時的な利益が発生。

億円	2011年度	2012年度	2013年度
売上高	¥8,355	¥8,565	¥9,339
営業利益	716	729	729
総資産	12,684	13,328	13,361
減価償却費	724	718	686
設備投資額	562	399	324

\* 2013年度第1四半期に行われた組織変更により、光学デバイス事業をインフォメーション ソリューションからイメージングソリューションへ変更しています。これに伴い、2011年度及び2012年度の数値をリスタートしています。

## メディカルシステム（ヘルスケア）

### 事業の概要

#### 「診断」に関わるさまざまな医療機器・システムを提供

1936年のX線フィルム発売に始まり、X線画像診断システム、内視鏡、超音波診断装置など、医療現場を支える機器やITシステムを提供しています。長年、医療現場で築いてきたノウハウや技術を強みに事業領域を拡大させ、医療ITを軸に病院内、地域内をトータルにつなぎ、医療のさらなる進歩に貢献していきます。

### 当期の実績と今後の取り組み

医療機器分野では、低価格・小型デジタルX線画像診断装置の販売が新興国などの海外で、DR方式・カセット型デジタルX線画像診断装置の販売が国内で、それぞれ堅調に推移しました。内視鏡分野では、国内外で販売が拡大したことにより売上が増加しました。また、新世代内視鏡システム「LASEREO」などの販売も堅調に推移しました。超音波診断装置分野では、高解像度で鮮明な画質を実現したハイエンドモデル「X-Porte」を発売しました。医療IT分野では、国内外で医用画像情報システム「SYNAPSE」などの売上が大幅に増加しており、引き続き国内でトップシェアを維持しています。

今後も、医療情報統合による診断支援に向け、診断分野での事業拡大を進めていきます。

## 医薬品（ヘルスケア）

### 事業の概要

#### 独自技術による特長ある医薬品事業を展開

「治療」の分野において、低分子医薬品・バイオ医薬品・再生医療の3分野を中心に事業を展開しています。富山化学工業をはじめとした事業会社により既存ビジネスを拡大するとともに、富士フィルム医薬品・ヘルスケア研究所などで特長ある新薬の研究開発を推進しています。

### 当期の実績と今後の取り組み

富山化学工業のβ-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤「ゾシン」の販売が好調だったこと、富士フィルムファーマで取り扱っているバイエル薬品株式会社の先発薬の販売が伸長したことなどにより売上が増加しました。パイプラインの開発も着実に推進しており、2014年3月には錠剤タイプの新しい抗インフルエンザウイルス薬「アビガン®錠200mg」(T-705)の国内製造販売承認を取得しました。さらに、抗がん剤候補3薬剤の米国での臨床試験を、世界トップレベルのがん研究・治療施設であるテキサス州立大学MDアンダーソンがんセンターと協働して順次開始しています。

今後は、既存ビジネスを中心に売上成長させると同時に、新薬による収益貢献の早期化を狙い、新薬開発をさらに加速させていきます。

## ライフサイエンス（ヘルスケア）

### 事業の概要

#### 人々の健康、生活の質向上に寄与する製品を提供

富士フィルムでは、2006年に機能性化粧品・サプリメントを発売し、「予防」の領域へと進出しました。写真事業で培った「コラーゲン」に関するノウハウや抗酸化技術・ナノテクノロジーなど当社グループの強みを生かし、特長ある製品をご提供しています。

### 当期の実績と今後の取り組み

美白スキンケアシリーズの「アスタリフトホワイト」の販売が堅調に推移しました。また、2013年9月に大人ニキビケアシリーズの「ルナメア アクネケア」を発売し、20～30代の女性をターゲットにしたスキンケアブランド「ルナメア」のラインアップ強化を図りました。

今後も化粧品・サプリメントともに、独自技術を用いてサイエンスに裏付けされた機能性商品を提供し、他社との差別化を図っていきます。

T O P I C S

拡大する携帯型装置市場に向けて  
超音波診断装置での取り組み

世界における超音波診断装置の市場規模は5,000億円以上で、医用画像診断装置市場の中でも最大規模となっています。現在は据え置き型装置が主流ですが、携帯型装置は今後高い成長が見込まれています。

当社は、この携帯型装置市場の拡大に対応するために、2011年度に米国ソノサイト社(現：富士フィルムソノサイト社)を買収しました。ソノサイト社は携帯型超音波診断装置市場では世界シェア2位(2014年6月現在)を誇る会社です。Point of Care市場において医療現場のニーズを的確にとらえ、そのニーズに応える製品を生み出し、超音波診断装置の新たな応用分野を開拓してきました。またソノサイト社は装置の小型軽量化やプローブ\*の堅牢性を維持するための高い技術があり、富士フィルムの強みである画像技術を組み合わせることで画期的な製品を提供することで、市場での優位性をより高いものにしていきます。また両社の販売網のシナジー効果も最大化させます。

当社グループは、超音波診断装置の売上を年率10%以上で成長させ、携帯型超音波装置市場における世界シェアNo.1を目指して取り組んでいきます。

富士フィルムソノサイト社と初の共同開発製品  
次世代 携帯型超音波画像診断装置  
「FUJIFILM FC1」

富士フィルムは、富士フィルムソノサイト社と共同開発した携帯型超音波画像診断装置「FUJIFILM FC1」を発売しました。この装置はバッテリー式で手軽に持ち運べるため訪問診断などでも活用できる他、複雑な操作なしで診断部位を鮮明に観察できることが特長です。またプローブ\*は、落下や振動などに対する耐久性を向上しています。



「FUJIFILM FC1」

\*プローブ：診断の際に患者の体に接触するセンサー部

鮮明・高解像度な画質・全面タッチパネルによる簡単操作  
ハイエンド超音波画像診断装置  
「X-Porte」

独自の画像処理技術で、鮮明・高解像度な画質を実現したハイエンド超音波画像診断装置「X-Porte」は、操作部に全面タッチパネルを採用することで、シンプルで迅速な操作を可能にしました。また操作・読影方法を解説する機能も搭載しています。Point of Care市場でのさらなる強化を狙い、「X-Porte」を中心に据え置き型装置市場においても注力し、グローバルで広く展開していきます。



「X-Porte」

T O P I C S

がん領域に重点化した新薬の研究開発  
医薬品開発の進捗状況

当社グループは、がんを中心とする、有効な治療方法が確立されていない領域に重点化した新薬の研究開発に取り組んでいます。富士フィルムの基盤技術である解析技術や合成技術を生かすことで、作用の解明や難しい化合物の実用化を進めるなど、新しいアプローチで新薬の研究開発を進めています。

開発番号	薬効	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	米国	P III 実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	P I 終了
T-817MA	アルツハイマー型 認知症治療薬	経口	米国	P II 実施中
			日本	P II 実施中
T-4288	マクロライド系抗菌薬	経口	日本	P I 実施中
ITK-1	抗がん剤(前立腺がん)	注射	日本	P III 実施中
FF-10501	抗がん剤(血液がん)	経口	日本	P I 実施中
			米国	P I 準備中
FF-21101	抗がん剤(難治性固形がん) (Armed抗体)	注射	米国 欧州 日本	非臨床試験実施中
FF-10502	抗がん剤(難治性固形がん)	注射	米国 欧州 日本	非臨床試験実施中
F-1311	放射性医薬品 (前立腺がん診断用)		日本	P I 実施中

\*2014年6月現在

## グラフィックシステム

### 事業の概要

#### 印刷用材料や機器を全世界の印刷会社や新聞社に提供

製版フィルム・刷版用のCTPプレートのほか、印刷用薬品などを提供しています。また、成長分野であるデジタルプリンティングや、インクジェットビジネスの分野でもさまざまな製品を展開しています。

### 当期の実績と今後の取り組み

当期はCTPプレートのシェア拡大や為替の円安などにより売上が大幅に増加しました。また、2013年11月には、独ハイデルベルグ社とデジタル印刷市場のインクジェットプリンティング分野における業務提携について基本合意しました。

今後も、主力製品であるCTPプレートのシェア拡大に加え、デジタルプリンティング機器の拡販に注力し、売上拡大を図ります。

## フラットパネルディスプレイ

### 事業の概要

#### 液晶ディスプレイに欠かせないフィルムを提供

液晶テレビ、ノートPC、モニターなど液晶ディスプレイ用偏光板に使用されているフィルムを製造・販売しています。偏光板保護フィルム「フジタック」のほか、世界シェアが100%である視野角拡大フィルム「WVフィルム」などを提供しています。

### 当期の実績と今後の取り組み

WVフィルムはデスクトップモニターの需要低迷の影響を受けたことにより売上が減少したものの、テレビ画面の大型化などにより、VA用フィルムやIPS用フィルムの売上は堅調に推移しました。

今後も、需要拡大が期待されるスマートフォンやタブレットPCなどの中小型ディスプレイ向け薄膜フィルムのラインアップの拡充を図り、販売を強化していきます。

## 産業機材／電子材料他

### 事業の概要

#### さまざまな産業用機器・材料を提供

非破壊検査機材や各種高機能フィルム、半導体プロセス材料などのさまざまな産業用機材を提供しています。また、長年培った技術を生かした新素材の開発も進めています。

### 当期の実績と今後の取り組み

工業用X線フィルムや圧力測定フィルム「プレスケール」の販売が好調に推移したことに加え、スマートフォン・タブレットPC・ノートPCなどに搭載されるタッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」や太陽電池用バックシートなどの新規高機能材料製品の販売が寄与し、売上が大幅に増加しました。

今後も成長が見込まれるタッチパネル分野や環境・エネルギー分野での売上拡大を目指します。

電子材料事業では、台湾向けCMPスラリー及び欧米向け処理剤の販売が堅調に推移したことなどにより売上が大幅に増加しました。

今後もフォトレジスト、CMPスラリーなど幅広いラインアップの製品を提供していきます。

## 記録メディア

### 事業の概要

#### 需要が拡大するデータアーカイブ分野のニーズに応える

#### 磁気記録テープを提供

データセンターなどで使用される大容量で信頼性の高いコンピューター用テープや業務用ビデオテープなどを提供しています。

### 当期の実績と今後の取り組み

「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」を採用したコンピューター用磁気テープの販売が順調に推移したことや、為替の円安などにより売上が増加しました。

今後は、独自技術に基づく磁気テープの高容量化を継続して進めるとともに、欧米及び国内で展開中のデータアーカイブサービス「d:ternity(ディターニティ)」の拡充など、一層の高付加価値製品とソリューションの提供を目指していきます。

## T O P I C S

### 「BaFe磁性体」の採用により、記録容量が飛躍的にアップ 市場で見直されるコンピューター用磁気テープ

デジタルデバイスの大容量化や映像の高精細化に伴い、世の中のデータ容量が爆発的に増加しています。その中で、現在主流のハードディスクドライブ(HDD)に比べて長期保存性、信頼性、コスト面に優れた記録媒体として磁気テープが見直されています。磁気テープの世界生産量は近年増加しており、富士フイルムは世界シェアNo. 1\*1を誇っています。

富士フイルムは磁気テープの材料に世界で初めて「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」を採用し、従来の「メタル磁性体」を用いた製品と比べて容量を飛躍的に向上させた大容量磁気テープを提供しています。IBMと共同で行った「BaFe磁性体」採用の磁気テープの実走行試験では、塗布型磁気テープにおいて世界最高の面記録密度85.9Gbps<sup>2</sup>でのデータ記録・再生を実証しました\*3。これは、1巻あたりの記録容量が、154TB(テラバイト\*4)データカートリッジの実現に大きく近づく画期的なものであり、量産化の可能性も視野に入れています。

\*1 生産者シェア(富士フイルム調べ。2014年5月時点。)

\*2 面記録密度を表す単位であり、Giga bits per square inchの略。

\*3 2014年5月時点。IBMチューリヒ研究所で行った実証実験に基づく。

\*4 1TB(1テラバイト=1000GB)は10の12乗バイト。DVD約200枚に相当。



### 増大する大容量デジタルデータを安心、低価格で磁気テープに長期保管 データアーカイブサービス「d:ternity(ディターニティ)」

2014年4月よりコンピューター用磁気テープを使用した法人向けデータアーカイブサービス「d:ternity(ディターニティ)」の提供を国内で開始しました。本サービスは、映像作品のコンテンツデータ、企業の研究データ、医療用データなどのあらゆるデジタルデータを磁気テープに保存し、安全かつ低コストにデータセンターで長期間保管するサービスです。

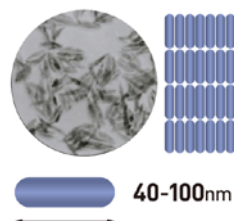
富士フイルムは世の中のあらゆるデータを人類の大切な財産であると考え、今後もお客様のデータ保存に関する幅広いニーズにお応えする最適なサービス、ソリューションを提供していきます。



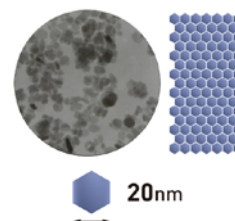
d:ternity データセンター

### BaFe磁性体の優れた特長

メタル磁性体



BaFe磁性体



高容量化	磁性体としてのサイズが微細化されたことで、より多くの磁性体を敷き詰めることができるようになり、高容量化を実現しました。
長期保存性	BaFe磁性体はもともと酸化物なので、酸化による劣化が起りません。そのため、30年相当の長期保存が可能になりました。
記録安定性	周波数特性に優れており、記録・再生精度が高く、安定したデータ書き込みができます。